

2020年12月期 第2四半期決算 質疑応答(要旨)

2020年11月20日 10:00-11:00

株式会社キッツ

質疑応答要旨①

No.	項目	Q	A
1	2020年12月期通期業績見 通し	バルブ事業の第3四半期(3カ 月)は、第2四半期と比較すると、 売上高の減少に対して、営業利 益の減少幅が非常に大きい が、要因は？	半導体向けは、国内外とも回復傾向が続いているが、そ の他は国内・海外とも低水準で推移している。海外は、中 国を除く全てのエリアで良くないが、第3四半期の利益へ のインパクトが大きいのは、国内の需要減。
2	2021年見通し	2020年第3四半期の状況が、来 期1年間継続する可能性もある のではないかと。回復する見込み はあるのか。	<p>(バルブ事業)</p> <p>国内は、この2020年第3四半期が底と見ている。2021年第 1四半期は稼働日数が少ないため、大きな回復は難しい かもしれないが、若干上向くと見ている。それ以降の予想 は難しいが、経済指標等からは緩やかな回復を見込んで いる。海外は、Oil&Gas向けの比率が高く、納期が長いた め、第2四半期までは厳しい見通し。半導体向けは、波は あるかもしれないが、5G・IoT需要などにより、足元よりも 高い水準を見込む。</p> <p>(伸銅品事業)</p> <p>減少していた黄銅棒需要は、2020年2Qを底に回復してき ている。</p> <p>(その他)</p> <p>ホテル事業は、2021年夏の花火大会が開催されれば、増 収増益が見込める。</p>

質疑応答要旨②

No.	項目	Q	A
3	2021年見通し	半導体向けが回復していくのはイメージできるが、それ以外の産業向けは大丈夫なのか。建築設備向け需要が回復するのは、2022年からではないか。	大型物件の計画を見ると、確かに建築設備向けの回復は、2021年秋以降となる可能性もあるが、一方で、各地でデータセンターの建設が予定されており、バルブが多数使用されるため、受注に注力していく。
4	2021年見通し	バルブ事業の営業利益率が低下しているが、2021年から回復させられるか。	利益率低下の主な要因は、国内市場とアセアンの需要減。国内市場は、流通在庫の調整が進めば、実需が売上につながるようになる。アセアンは、流通在庫はかなり低水準になっているはずであり、2021年は回復が見込めるのではないかと。
5	中計の進捗	2019年にマレーシアのバルブメーカーUnimechと資本業務提携を発表したが、その後、具体的な成果は出てきているか。	新型コロナウイルス感染拡大により、なかなか進んでいないが、クロスセル(お互いのブランドをお互いの商流で販売)では実績が出てきている。今後は、代理店政策、ブランド戦略等を検討し、提携の成果を出していきたい。
6	新型コロナウイルス	新型コロナウイルス感染拡大による世界の変化により、バルブ市場に新たな需要が生まれるといったことはないのか。例えば、自動化需要など。	自動操作バルブの需要が大幅に伸びるといったことはないが、「バルブのデジタル化」はあるかもしれない。例えば、取り付けセンサーにより、バルブの状態の把握、遠隔操作が可能になるなど。